

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:9.

ナースにとっていいストーマとは

日野岡 蘭子

ナースにとっていいストーマとは

旭川医科大学病院 看護部 ○日野岡蘭子

排泄のためのストーマとは排泄経路の変更である。生物は排泄できなければ生存不可能であり、生きるために行う手術である。その中で最優先事項は安全に排泄ができることである。看護の視点ではそこに生活という視点が加わり、これは看護の原点とも言える健康問題への対処が必要となる。医学は数値が客観的な指標となり治療のゴールを設定する。看護学は加えて患者自身の感情を含めた日常生活の遂行への達成度が重要となる。ストーマケアは排泄ケアであり、特別なものではない。しかし、通常多くの人が行う排泄行為と異なる管理が必要であり管理しやすいかどうか指標の一つとなる。

小児のストーマにおいて成人との最大の相違点は、養育者がケアの主体を担うことである。ストーマ造設術を受ける児を出産した両親の衝撃は大きく、以前の報告では、何がなんだかわからない衝撃と、お尻の穴がないという具体的な事実に対する衝撃の二つが示された。さらに

退院後はストーマケアに対する負担を重く感じているという意見が大半を占めた。ここから示唆されるのは養育者への途切れないサポートと負担を感じさせない確実なケアの提供である。これには管理しやすいストーマが欠かせない。管理しやすいストーマの条件は漏れによる不定期の装具交換を回避できる、多くの保護材を使用しないシンプルなケア方法が選択できることである。排泄物の漏れはケアを担う養育者にとり大きなストレスとなっていることが明らかとなっている。

本研究会過去10年の演題総数372題中、管理困難なストーマ管理に焦点をあてたものは92題であった。医師は治療上の制約があり管理しやすいストーマ造設困難な症例に苦慮していることが伺えた。治療上の制約と生活の質を保証するための管理しやすいストーマとの間で、何を優先するのか妥協点をどこに見出すのか、現時点での永遠ともいべき課題であると考えられる。